

運動習慣確立のためのカリキュラム開発

ー ビジョンの共有とカリキュラム・マネジメント ー

学籍番号 199102
氏名 今福 明
主指導教員 田村 知子

1. 問題の所在と研究の目的

1.1 運動習慣確立のためのカリキュラムの必要性

「生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現」を目指すことは、学校体育における重要な考え方である。また、「体力の低下」「運動する子としない子の2極化」が大きな課題であることも広く浸透している。このような状況を鑑みると「体力低下」「運動習慣の2極化」の改善が図られ、「豊かなスポーツライフの実現」へとつながるカリキュラム開発が必要になっている。

1.2 A小学校の実態と課題

令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査によるとA小学校の体力は、女子はほぼ全国と同レベル、男子は下回る結果であった。運動時間数が少なく、運動を「続けたい」児童が少ないことから、運動習慣が確立されている状態とは言えない実態が確認された。運動習慣を確立させ、運動を「続けたい」と意識改善を図ることがA小学校の課題解決へのカギとなる。

2. 研究の目的と先行研究

2.1 本研究の目的

本研究の目的は、「体力低下」「運動習慣の2極化」の改善が図られ、豊かなスポーツライフの実現へとつながる、運動習慣確立のためのカリキュラムを開発し提案することである。その際、コロナ禍の状況下にも対応し得る実践カリキュラムを開発する。

2.2 先行研究の検討

先行研究の検討を行い、本研究における理論的な枠組みを明らかにした。即ち、①運動が好きであるという感情を育む取り組みとなっていること、②量的な身体活動の確保、様々な運動経験の獲得をねらった取り組みとなっていること、の2点がポイントである。

3. 実践

3.1 マンダラートを活用してのA小ビジョン作成

カリキュラム・マネジメントに着手するにあたり、カリキュラム・マネジメントの方向性や目的を共有するために「マンダラート（大谷俊彦 2019）」を用いての「A小ビジョン」の作成・共有のためのワークショップ型研修を行った。その成果物がA小ビジョン(図1)である。

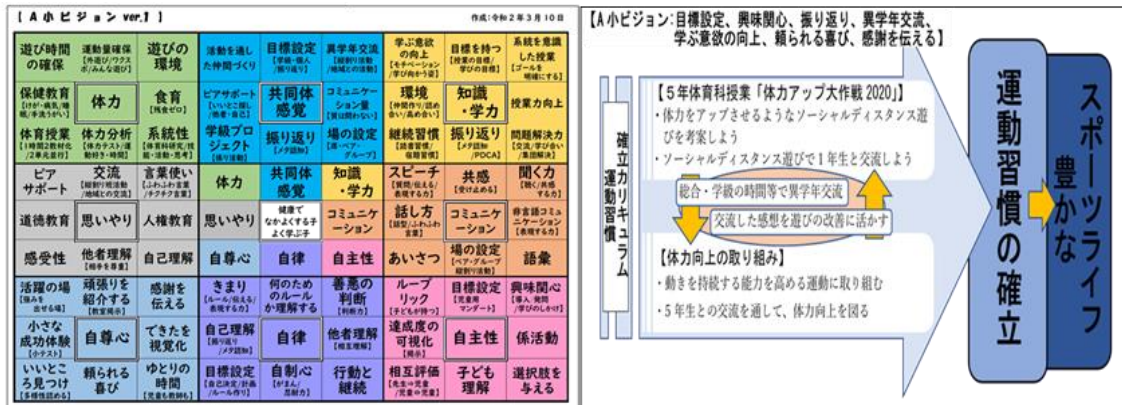


図1 A小ビジョン(第2回WS型研修作成物)

図2 「運動習慣確立カリキュラム」モデル図 (5年生体育科授業)

3.2 ビジョンと実践との繋がり

令和元年度に作成したA小ビジョンを基に「豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成～withコロナの状況でも、「学ぼう」「楽しもう」～」という研究テーマを設定し、withコロナの状況下でも、運動する喜びや楽しさを創造する授業を目指すように方向転換した。

3.3 体育科授業の実際

コロナ禍の状況を踏まえ、以下の3つを研究の視点として校内の体育科授業研究を行った。

- ① コロナ禍の状況を踏まえての、状況・文脈のあるパフォーマンス課題の設定
- ② 全ての子どもが安心して参加でき、全力を出して活躍できるような環境設定・教材・教具・ルール等の工夫
- ③ 課題解決に向けた学び合いの工夫

3.4 体育的取り組みの実際

令和2年度は、体育的な行事や体育的取組についても、例年通りの活動ができる状況ではなく、取組の精選・内容の見直し・行い方の検討等のカリキュラム・マネジメントが必要となった。

4. 成果と考察

4.1 児童アンケート調査の結果より

本実践の特筆すべき結果は次の3点である。

- ① 体育科授業以外でも毎日運動している児童の割合が20%増加した。
- ② 全校児童の67%は「1年前の今ごろと比べて運動時間が増えた・少し増えた」と実感した。
- ③ 全校児童の63.5%が運動に対して肯定的な影響を受けているという変容が分かった。

4.2 担当教諭への聞き取り調査より

教員へのインタビューにより「運動を行う目標を明確にし、目標・めあてを確実に持たせることで、運動への取り組み方が変わり運動の習慣化に繋がる」ということが明らかになった。

4.3 考察

最後に研究の成果をまとめて「運動習慣確立のためのカリキュラム」を開発する際のモデル図(図2)を示した。